

福井 健策（ふくい・けんさく）先生

弁護士・ニューヨーク州弁護士
骨董通り法律事務所

弁護士（日本・ニューヨーク州）/ 日本大学芸術学部 客員教授

1991年 東京大学法学部卒業。

1993年 弁護士登録。

米国コロンビア大学法学修士課程修了

（セゾン文化財団スカラシップ）など経て、

現在、骨董通り法律事務所 代表パートナー。

著書に「著作権とは何か」「著作権の世紀」（共に集英社新書）、

「エンタテインメントと著作権」全4巻（編集、CRIC）、

「契約の教科書」（文春新書）ほか。

専門は著作権法・芸術文化法。クライアントには各ジャンルのクリエイター、

劇場、劇団、プロダクション、出版社、音楽レーベルなど多数。

東京藝術大学ほか非常勤講師、think C 世話人、国会図書館審議会ほか委員・理事を務める。

<http://www.kottolaw.com> Twitter: @fukuikensaku



〈講義概要〉

芸術文化法、著作権法を専門分野とし、エンタテインメント業界の第一線で活躍する弁護士、福井健策氏がデジタル時代の著作権について講義を行った。

講義では、本講座の大きなテーマのひとつである著作権について、まずその定義を具体例とともに分かりやすく説明し、著作権から除かれる情報や著作権の及ぶ範囲等についても実際の判例を用いながら解説した。また、模倣とオリジナルの境界について「スイカ写真事件」を例に挙げ、判断の難しさや境界の曖昧さを分かりやすく伝え、エンタテインメントビジネスの基礎となる著作権について必要な知識と考え方を示した。

最後には、デジタル・ネットをめぐる最近の話題について紹介するとともに、「テクノロジーによって情報を広く流通させつつ、創作者へ正当な利益を還元することが著作権にとっての最大の課題となっている」と言及した。学生はデジタル時代における著作権の重要性を改めて痛感し、今後も更なる学習に取り組む意欲を示した。

《受講生の感想》

今日の講義を聞いて改めて著作権について考え、この世の中に著作権がどれだけ重要で、また人の権利を保護しているのか知ることができました。将来はコンテンツビジネスに関わっていきたいと思っているので、今日のお話は非常に勉強になりました。これからもっと勉強して将来に役立てたいと思います。

立命館大学・映像学部・2 回生

デジタル・ネット化が進むにつれて著作権はより重要な法律となっていくと思います。これからも変化していくものだと思うので、著作権について一般の人々にはもっと知識を持つべきだと思います。動画投稿サイトなど、あまり知識を持たないまま利用している人はとても多いのではないのでしょうか。中学校や高校でも著作権について取り上げ、学習すべきだと思います。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

著作権の問題は本当に境目が曖昧で判断が難しく、知らない間に他人の著作権を侵害している場合も多いと思う。ネットでの著作権の問題は本当に身近なもので、気を付けないといけなと思います。スイカ写真事件という具体的なもので考えると本当に著作権という問題はややこしいことだと思った。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

著作権については年々新しい事例が登場し、法改正が追いつかないという状態になっている。その様な中で、著作権の考え方の基本を理解することの重要性を学んだ。また、新たな技術の発展に伴う新事例についても調べてみたいと思う。

立命館大学・法学部・3 回生

これほど著作権について学んでいると知らない人がまだまだ多いということに気付かされます。デジタル化が進み、ネットワーク技術も発展していく中で著作権を保護していくのは難しいですが、コンテンツを大切にしていこうと感じました。これから出てくる著作権問題に目を向け学んでいこうと思います。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

著作権を侵害しているかどうかの判断は非常に微妙なものが多く、著作権というものを知っていてもその中身について詳しく知っていなければ、知らず知らずのうちに著作権を侵害してしまいかねないと思います。私もそんなことがないように、著作権に関してより理解を深めていきたいと思いました。また、デジタル時代になり、著作権の問題も多様化していると思うので、著作権のあり方についてもより慎重に話し合っていくべきだと思いました。

立命館大学・産業社会学部・4 回生

